

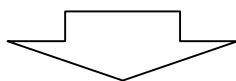
「財産経営」の推進について

1 課題（「財産白書」から）

- 人口減少 81万人（H22年）→ 67万人（H52年） 18%減少
- 少子・高齢化 生産年齢 16万人減，年少 4万人減，高齢者 6万人増
- 財政状況 人口減少に伴い将来の財政見通しは不透明
- 公共施設 1人あたり保有面積は政令市最大，老朽化施設が増加
全ての施設を更新することは困難
- インフラ資産 耐用年数超過，老朽化による維持修繕，更新費用が増加

2 公共施設（インフラ資産）の今後の方向性

- 公共施設は，総量削減，サービス機能の維持（多機能化，複合化）
- インフラ資産は，長寿命化を図りながら効率的な維持管理・更新



ファシリティマネジメントの考え方による財産経営が重要

（資産を経営的視点で適正管理・有効活用などを図ること）

3 財産経営推進計画

- 本年度中に策定（インフラ資産含む）
- 個別計画は資産別に策定（下水道H20～，上水道H22～，橋梁H22～）
- 国から策定要請があった公共施設等総合管理計画と整合

4 財産経営推進計画の進め方

- 議会，市民，庁内の意識共有を推進
- 庁内に財産経営推進本部を設置
- 多機能化，複合化などの基本的考え方（モデルケース）を例示

5 計画の体系

- 裏面体系図のとおり

次期総合計画について
本市を取り巻くメガトレンド・社会経済情勢から見た課題の整理

人口減少・少子・超高齢化
持続可能なまちづくり
コンパクトシティ
ファシリティマネジメント

共通の視点
で推進

